

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 洞北 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

#### (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

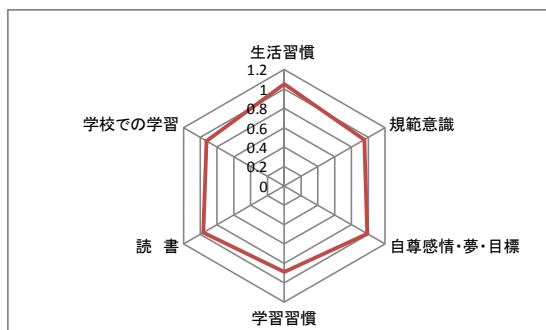
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.3	74	5.8	64	21.2	59	6.1	41
全国	25.0	76	6.0	67	22.4	62	6.6	44

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率をやや下回っていたが、全領域の正答率が全国平均正答率と近いこと、無回答率が低いことより基礎ができていていると考えられる。 ・記述式の問の正答率が全国平均正答率よりも高いことから書く能力が向上していることがわかる。	全国平均正答率との比較 <b>下回っている</b>
	よくできた問題	・文脈に即して漢字を正しく読む力や語句を適切に使う力についての問題は正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・特定の漢字について正答率が低いものがある。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を上回ることができた。全領域で平均正答率を上回っている。書く読む能力が高く活用する力が向上している。 ・全問いで無回答率が低い。国語に関する意欲関心が高いことがわかる。	全国平均正答率との比較 <b>上回っている</b>
	よくできた問題	・全領域で平均的に正答率が高く無回答率が低い傾向にある。	
	努力が必要な問題	・文章の展開に即して内容を理解したり必要な情報を読み取る問の正答率が低い	
数学A	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、特に数量の関係を捉え文字式で表す問いと空間図形に関する問の正答率が低い。 ・数学的な技能、図形などに関する基礎力をつける必要がある。	全国平均正答率との比較 <b>下回っている</b>
	よくできた問題	・分数と少数の乗法の計算と正の数、負の数の加法の計算の問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・具体的な数量の関係を捉え、比例式にする問の正答率が低い。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	・全国平均正答率を下回っており、関数や図形に関する問の正答率が低い ・数学的な技能、図形などに関する基礎力を養うとともに数学に関する見方や考え方を高める必要がある。	全国平均正答率との比較 <b>下回っている</b>
	よくできた問題	・与えられた情報から必要な情報を適切に選択し、処理する問の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・筋道を立てて考え、証明する問と付加された条件の下で、新たな事柄を見出し証明する問の正答率が低く無回答率が高かった。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣は確立されていると考えられる。</li> <li>・朝読書の継続的な取り組みで読書が好きな生徒が多く読書量も豊富で、文章表現や読解力の向上など活用する力の向上に役立っていると考えられる。</li> <li>・宿題など与えられた課題の取り組みは行うが主体的、計画的に家庭学習に取り組む習慣付けが必要がある。</li> <li>・将来の夢や希望をもっている生徒は全国と同じくらいいる。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校で取り組んでいる授業のながれのスタンダード化「めあて」「まとめ」「ふりかえり」を継続して行う。</li> <li>・生徒の話し合い活動を積極的に授業に取り入れる必要がある。友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりする機会を増やし生徒の主体的な学び(アクティブラーニング)につなげる。</li> </ul>
--

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習において宿題などの課題を出す取り組みは継続的に行っていく。また生徒が計画的、自主的に学習に取り組めるよう自主学習ノートの活用を進める。</li> <li>・小中連携の観点から、小学校6年生に対して春休みの宿題や自主学習ノートの取り組みを継続的に行う。</li> </ul>
--